

平成24年8月23日 NO. 180 守山市教育研究所発行

守山市勝部三丁目9-1 (守山市生涯学習・教育支援センター 愛称: エルセンター3・4階)

TEL 583-4217 FAX 583-4237

E-mail kyoikukenkyl@city.moriyama.lg.jp

所長 森津 陽太郎

H P <http://www2.city.moriyama.lg.jp/moriyama-kyoikukenkyl/>

～NPO法人びわこ豊穡の郷は「目田川モデル河川づくり」活動に対して「日本水大賞審査部会特別賞」に輝きました。「水辺の楽校」など子どもたちへの自然の大切さを考える取り組みなどもしていただいています。今回ご寄稿をお願いしました。～

目田川に自然を学ぼう

NPO 法人びわこ豊穡の郷

顧問 北田 俊夫

その昔、守山は鈴鹿山系を水源とする野洲川の水に恵まれ、豊富な清水が流れる自然豊かな里中川が数多く走っていた町域でした。

しかし近年、上下水道が整備され“水”が便利になると共に、川への関心が希薄となり、多くの川そのものも自然河川とは程遠いコンクリート張りの排水路と化してしまいました。私たち「びわこ豊穡の郷」では市立図書館の北側に流れる目田川河川敷の一部をお借りして、多自然型河川（昔の里中川）を再現しようと2001年より作業に取り組み10年余を経過した今、ようやく沢山の小魚たちが泳ぎ、多様な水草が茂る生物多様性豊かな水辺となってまいりました。

幸いこの活動に関心を持っていただいた近隣の障害者福祉施設「湖南ホームタウン」の職員の方や家族の会、レイカディア大学のボランティアグループの人たち、大学生や個人の方たちも毎月1回の作業日（第3土曜日の午前）に参加いただき協働の輪が広がっています。一方その上流部では守山ライオンズクラブを始め諸団体の皆さんがカキツバタの植栽や桜並木作りに努力され、流域としての川づくりが展開してきています。

私たちの目田川における“川づくり”の目的は

- ① きれいな水がいつも流れている川
- ② 魚達が群れを成して泳いでいる川
- ③ 岸辺の樹木や草花が季節を伝えホテルが乱舞する川
- ④ 子どもたちに自然の遊び場と市民に憩いの場を提供できる川

ですが、このフィールドを活用して子どもたちを始め市民の皆さんが肌（五感）で自然に触れていただく場をも提供していきたいと考えています。

子どものころに水辺で遊んだ経験は大人になっても水への思いに繋がっています。ここで開催する「水辺の楽校」などの体験学習イベントを通じて子どもたちと一緒に親の皆さんにも参加してもらい、親から子どもたちに自然の大切さを伝えてもらうと共に子どもをきっかけに水辺への関心を高めていきたいと願っています。

私たちそれぞれの身近に流れる川がきれいになれば自ずと赤野井湾や琵琶湖の水環境改善へと必ず繋がっていくと考えます。

水環境の改善は決して容易なことではなく、時間と労力と根気がいる課題です。しかし決して難しいことはありません。

- 1: 身近な水や川に関心と好奇心を持つ
- 2: 自らは汚さない
- 3: 改善への取り組みに参加し汗を流す

みんなの協働（ちから）で水辺豊かなふるさとの川を甦らせましょう。

私たちは今回の受賞を素直に喜びそして今後の活動への糧にして“水に親しみ水を楽しむ川”加えて“水に学び水を守る川づくり”により、多自然型里中川を次世代に引き継ぐべく活動を続けて参ります。



調査研究の取り組み

家での会話は、子どもを伸ばす

守山市教育研究所では、昨年度から「子どもの生活習慣・学習習慣改善に関わる調査研究」に取り組んでいます。望ましい生活・学習習慣づくりを推進し、子どもたちがこれからの社会をたくましく生きていくためには、どのような力が必要になってくるかについて研究しています。



昨年度の研究で明らかになった、子どもたちの課題と改善策についてお知らせいたします。
《小学校3年生》

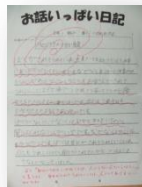
【課題】 《家での会話の少なさ》 《書くことが苦手》

小学校6年生を対象とした全国学力・学習状況調査では、学校での出来事を家で話をする子ども、書くことを難しく思っていない子どもの正答率が高いことが分かっています。

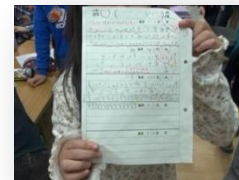
【改善策】 《意図的に会話の機会を増やす宿題を取り入れる》 《学級で、負担なく書く力をつける》



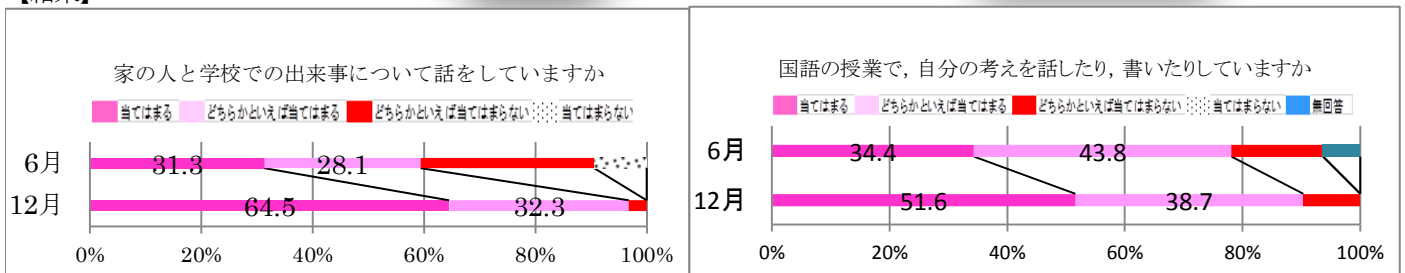
『お話し日記』



『3行日記』



【結果】



学級で工夫して改善策に取り組んだことにより、表のように子どもたちの意識はよい方向に改善しました。昨年度は、中学1年生でも課題に応じた改善策を講じ、成果が見られました。今年度は、対象を就学前の子どもまで広げ、発達段階のつながりを意識した生活・学習習慣に関わる調査研究に取り組んでいます。



教育相談研修講座Ⅱ 「ソーシャルワーク的な視点を取り入れた子どもの見方、とらえ方」

6月12日(火)15:00~16:45 エルセンター 大会議室 講師 スクールソーシャルワーカー

宮脇 千恵 氏

— 子どもの問題行動は、子ども自身の課題と環境の相互作用から生まれるととらえて、子どもの特性・課題や、環境からの影響をアセスメントし、環境からの働きかけと、本人に力をつけることで問題となっている事柄を解決していける支援をする。 —

●受講者のアンケートから

- ・アセスメントをするために様々なプランを立てることが大切であると知り、たくさんの情報を集め、いろいろな角度から背景を見ていくことが必要と改めて感じた。
情報は自分だけで集めるのではなく、周りにいる先生に聞くことで、カギになる情報がみつかるのだと思う。
- ・立ち歩いたり部屋を出てしまう子の様々な背景の予想やそれぞれへの対応も具体的に聞くことができ、自分自身が今悩んでいることに対してヒントを得ることができた。また、困っている子に寄り添いながらも社会の中でできるだけ困り感が少ないように自身を持って、自立できるように援助していかなければならないと改めて感じた。ケースワークでも様々な先生方の意見を聞くことができ、いろんな考え方があつたことやいろんな支援の方法があることを知ることができた。

